

後期高齢者医療制度の撤廃署名に「しんぶん赤旗」のご協力を！「しんぶん赤旗」のご購読を！

「近所のみなさん、日本共産党です。」
この場をお借りして、後期高齢者医療制度の中止・廃止を求める、署名運動へのご協力と、『しんぶん赤旗』のご購読の、お願いをさせていただきます。しばらくのご協力を、よろしく願います。

みなさん。

日本共産党は、お年寄りに耐え難い負担を押しつけ、人の道に反する医療差別を持ち込む、後期高齢者医療制度は、廃止しないと、昨年来、中止・廃止を求める運動を続けてきました。

四月から実施が始まり、保険料の年金天引きも始まって、怒りと憤り（いきどおり）の声は、どんどん広がっています。

雑誌『週刊新潮』六月五日号は、各界の七十五歳以上の方々の、「怒りの声」を特集しています。

たとえば、八十六歳の作家・瀬戸内寂聴（せとうち・じゃくちよう）さんは、「後期高齢者という線引きはおかしい」という声をあげています。

また、**長い間政府の税制調査会・会長をつとめた、八十二歳の加藤 寛氏は、「強行採決して、無理矢理成立させた」と、自民・公明を批判して、「すぐに現行制度をやめて、豊かな人がお金を払い、貧しい人は年金から取らないような形にしないといけない」と、主張しています。**

埼玉県医師会をはじめ、各地の医師会やお医者さんたちも、「あまりにも弱い者いじめ」だと、「異議あり！」の声をあげています。

みなさん。

国会では、日本共産党など四つの野党が、五月二十三日に、後期高齢者医療制度を廃止して、もとの老人保健法にもどす**法案を、参議院に提出しました。**六月三日から、審議が始まるうとしています。

重たい負担と差別の骨格を残す、**小手先の「見直し」ではなく、中止・廃止を求めて、力をあわせようではありませんか。**

日本共産党が、各地で取り組んでいる**署名運動**には、党派を超え、また多くの若い人からも、賛同の声が寄せられています。

署名にご協力を、よろしく願います。

「近所のみなさん。」

自民・公明が進める政治のひどさは、後期高齢者医療制度だけではありません。

大企業の、コスト削減一辺倒が進められた、雇用の分野の「規制緩和」によって、今、若い人の二人にひとり**が、非正規の労働者**です。

モノ同然に働かされる若者の間で、日本共産党員作家・小林多喜二の『蟹工船』が、ベストセラーになるほど、よく読まれています。

地球温暖化問題では、ヨーロッパ諸国が、企業との間で協定を結んで、国全体で、温室効果ガスの削減努力をしているというのに、日本政府はそれをやろうとしません。

大企業に、雇用や社会保障、環境などの問題で、ヨーロッパなみに、**社会的な責任**を果たさせる必要が、あるのではないのでしょうか。

日本共産党が発行する『しんぶん赤旗』は、医療や年金の財源問題はもとより、日本の政治のどこをどう変えたらよいのか、詳しく報道しています。ご購読をよろしく願います。ご協力、ありがとうございます。